

# ペー・レイ

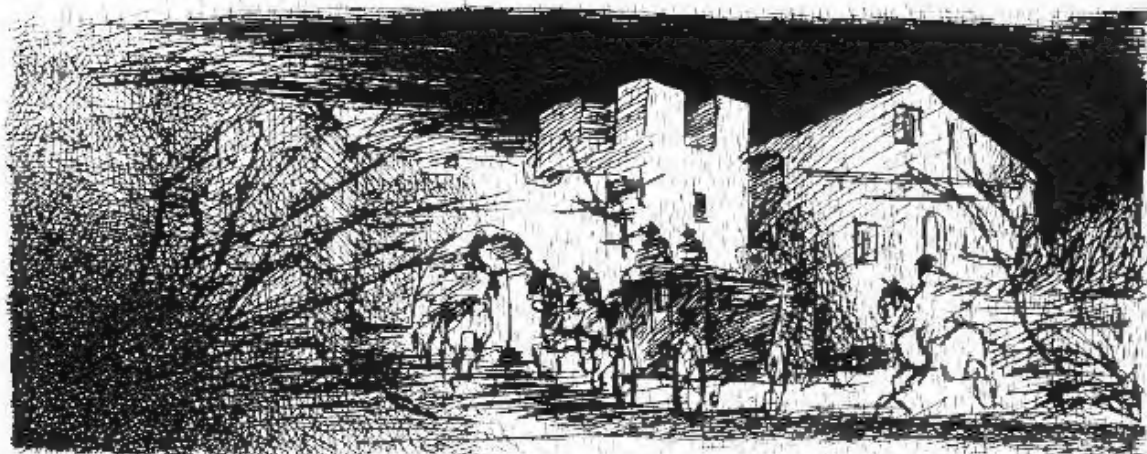


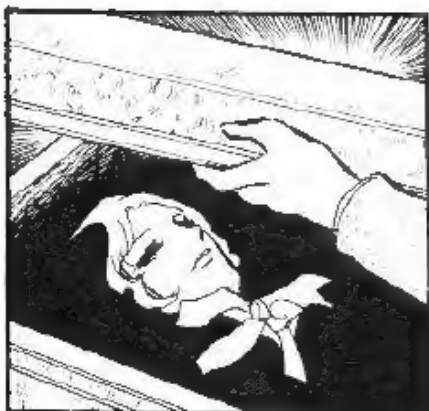






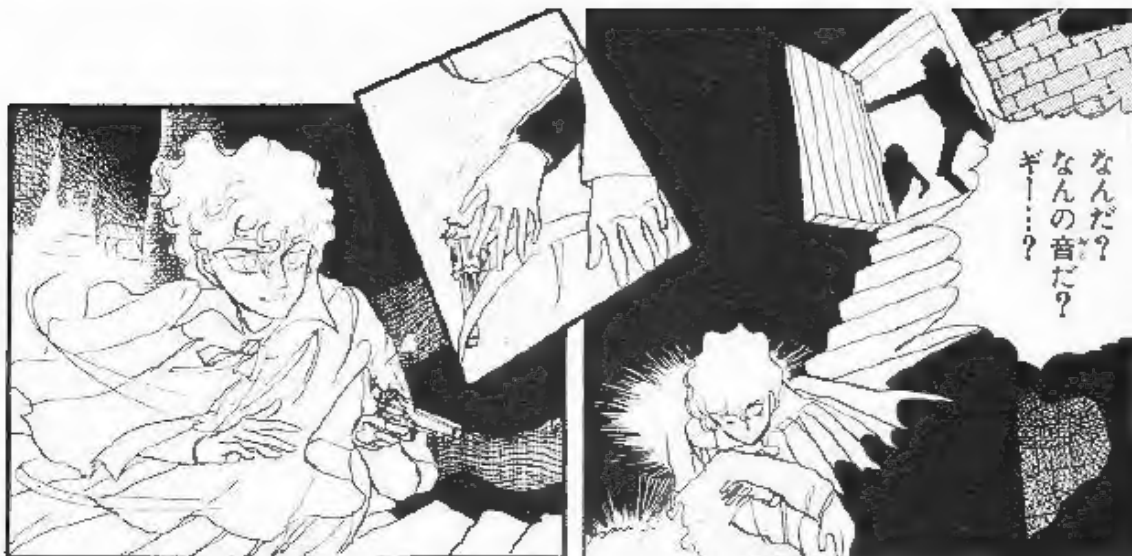










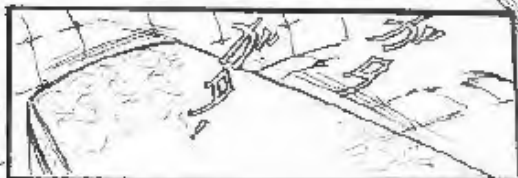
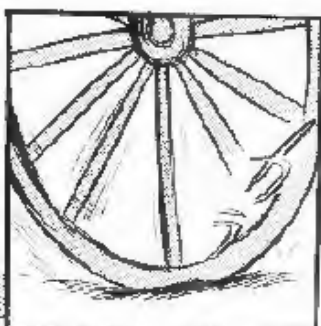






カ  
ワ  
サ  
ウ

サ  
ウ  
サ  
ウ





いそげ

いそげ

早く  
ウィッシュの  
小さな館へー



アランの  
目が  
さめる



ああ！

半年ほどまえ  
ここを  
通っていかれた  
男爵さまたちの  
馬車のおせわを  
いたしましたよ！

あつしを  
お忘れですかい  
ドンですよ！



お館へ？



館へ  
いくんだ



ポーツネル  
男爵さまの  
若さま……！

へえほんとに  
いらっしゃる  
ころだとは  
思っていました

六 七か月後に  
またよると  
男爵さまから  
聞いたから  
ましたから

お嬢様

お館は  
きれいに  
ございますよ  
まあでも  
この時期じゃ

殺風景で  
ないもありや  
しません  
なんでもた

お人です？  
男爵さまや  
メリベル  
お嬢さまは？

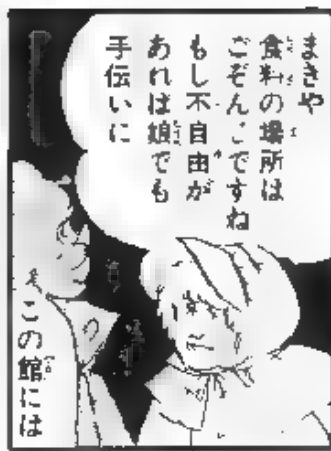
ああどうも  
かつてに  
しゃべっちゃって...







近づか  
ないでくれ



まさや  
食料の場所  
はごぞんじ  
ですな  
もし不自由  
があれは娘  
でも手伝  
いに

えこの館には



この荷物  
はここで  
ようござ  
います  
かい  
かるうござ  
いますね

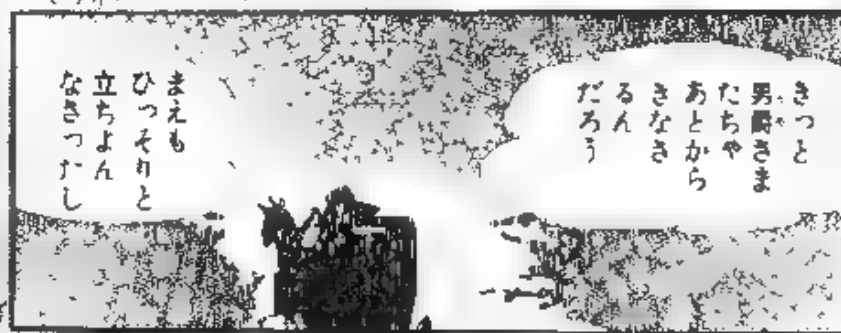
ああ  
もういいよ

あんな  
お館に  
お一人  
でつぎ  
あいの  
わるい

貴族さま  
の考えな  
さるこ  
た平民  
にや解  
せん

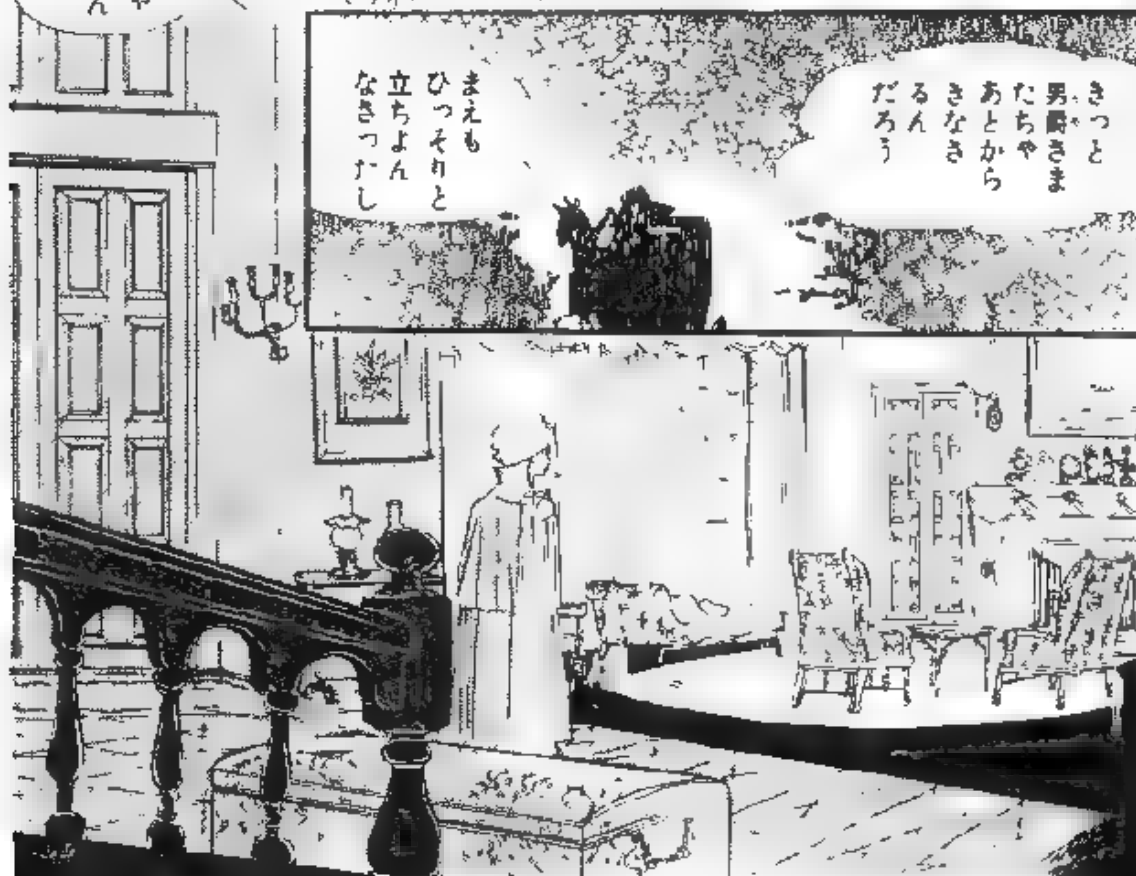


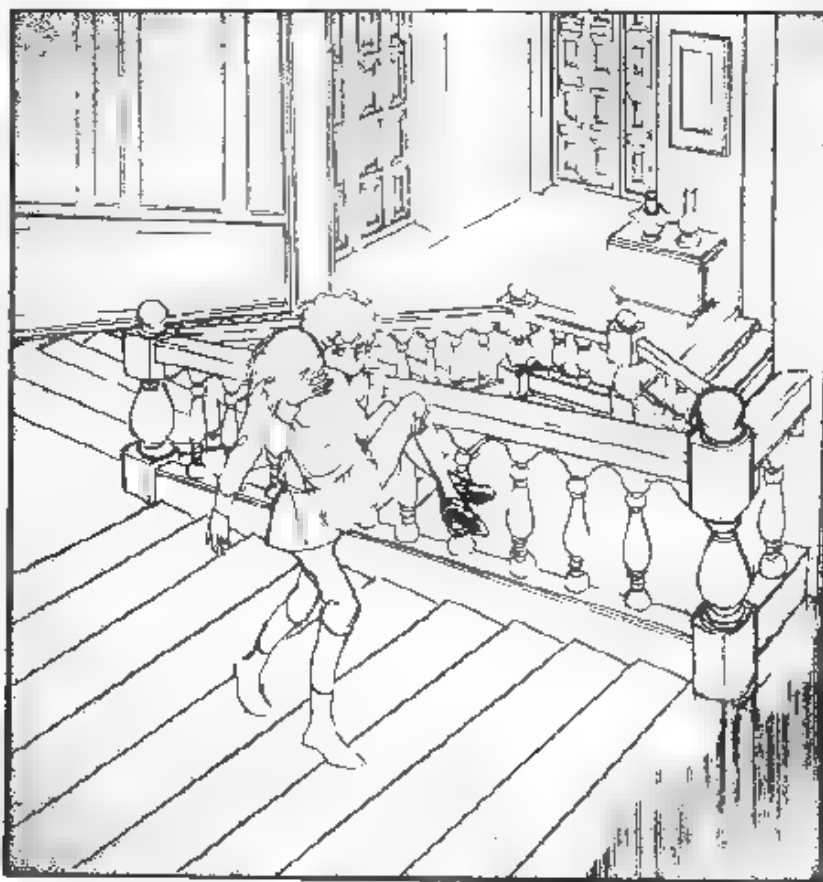
でも  
用が  
ありや  
よび  
なさん  
だろし

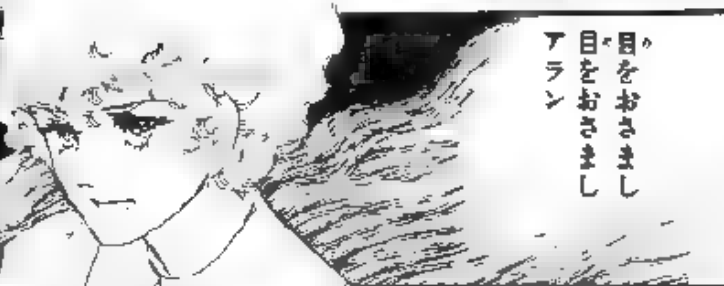
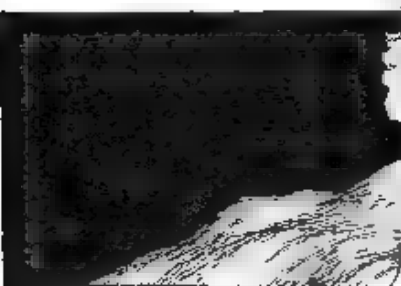
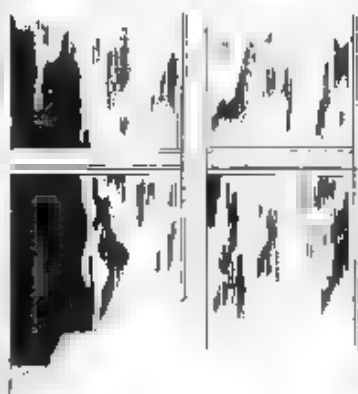
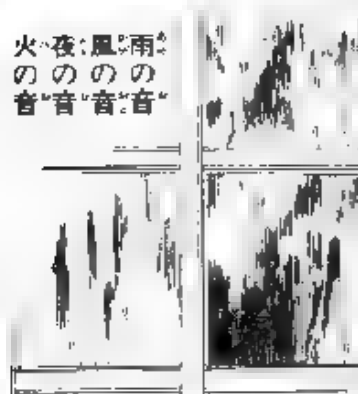
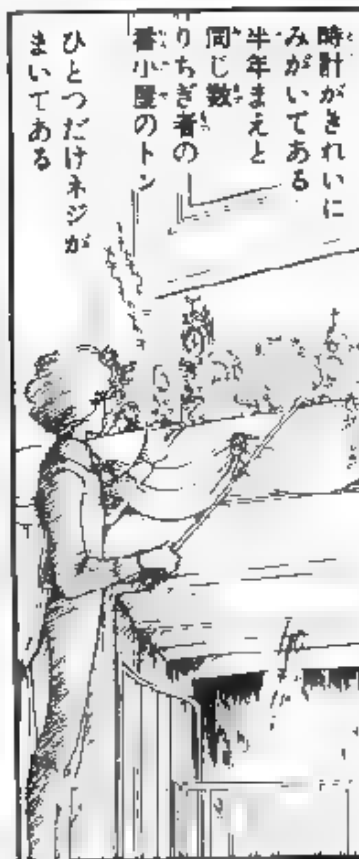
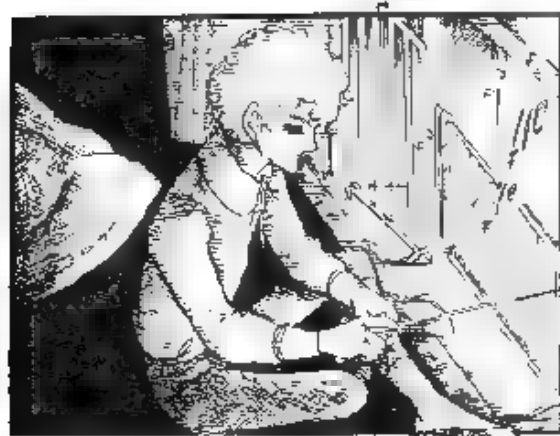
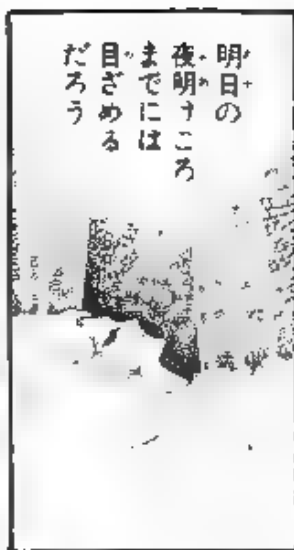
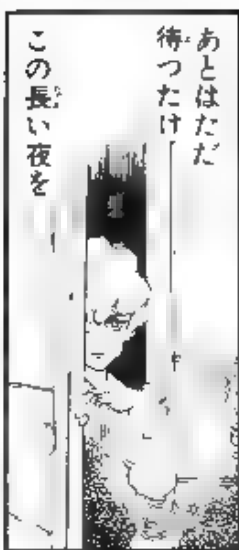


きつと  
男爵さま  
たちや  
あとから  
きなさ  
るん  
だろ

まえも  
ひっそり  
と立ち  
よん  
なさ  
つたし











日さめよ神話  
はくたちは時の夢

昔がたりと  
未知への畏怖が  
はくらの苗床  
はくらの歌

さようなら  
さようならを  
わけておしま  
アキラ  
人間界の  
すべてのもに

わがまをいふね  
はくたちは  
なにがこれか  
とてへゆえのか  
早  
目をおさまし  
早  
永遠を駆け  
馬車が出る



エトガー  
エトガー



おまえ  
おまえ



銀(愛)は小鳥の  
影の



おまえ  
おまえ

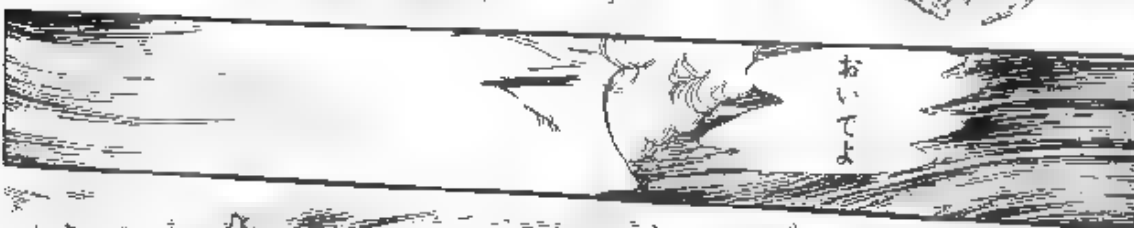
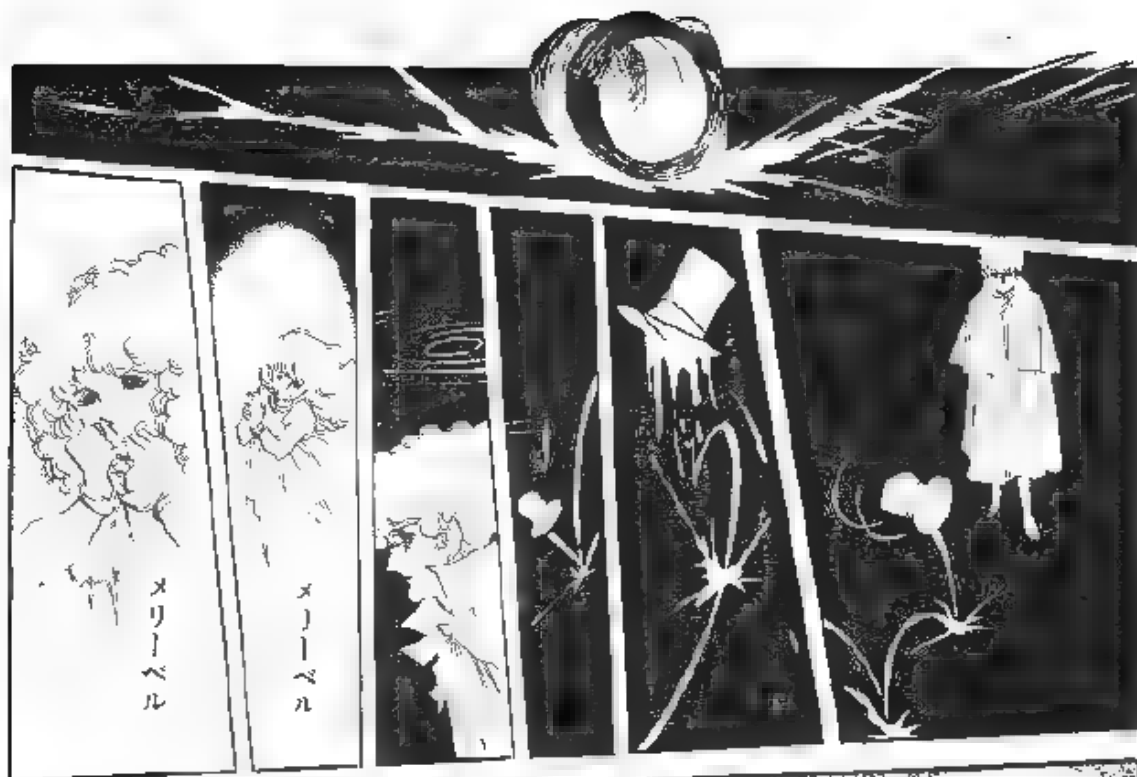


エトガー

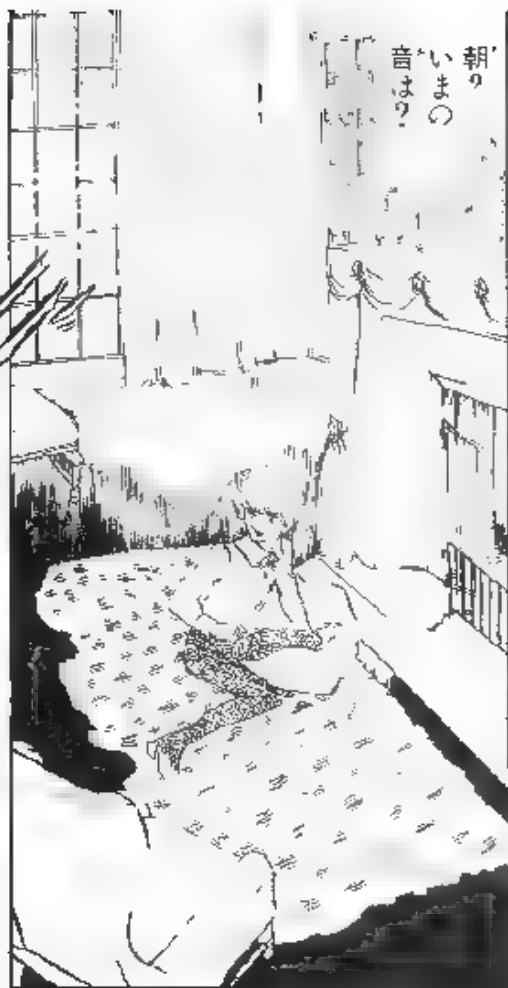


エトガー









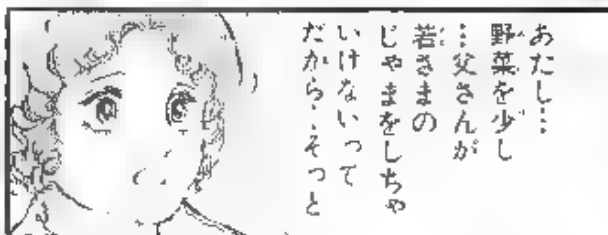
…でも  
父さんが  
持っていて



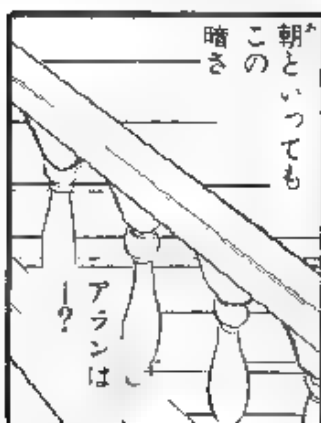
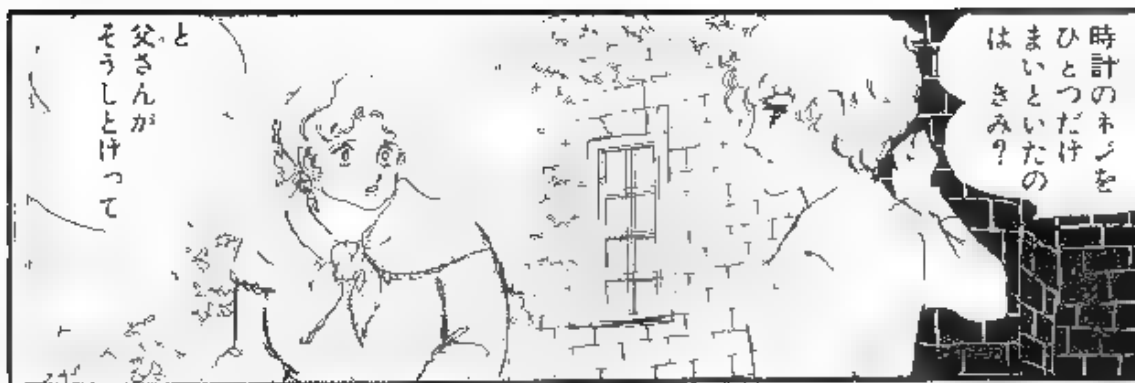
野菜の  
いらない

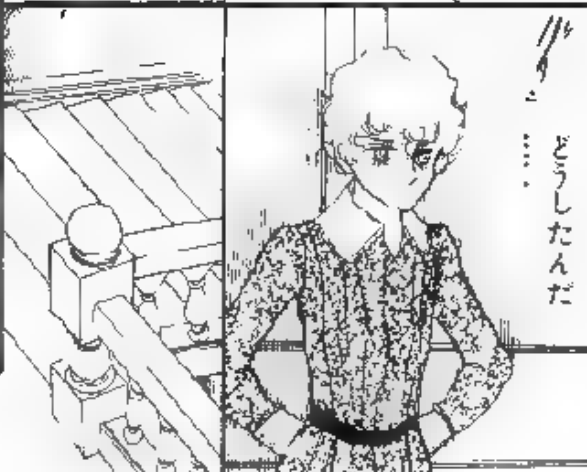
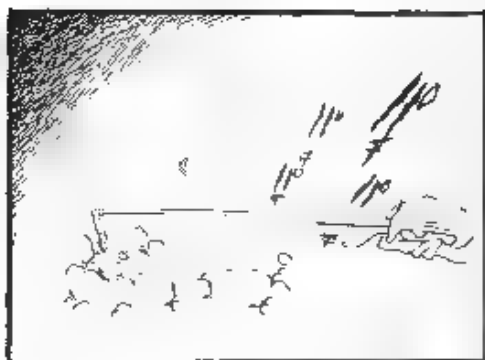


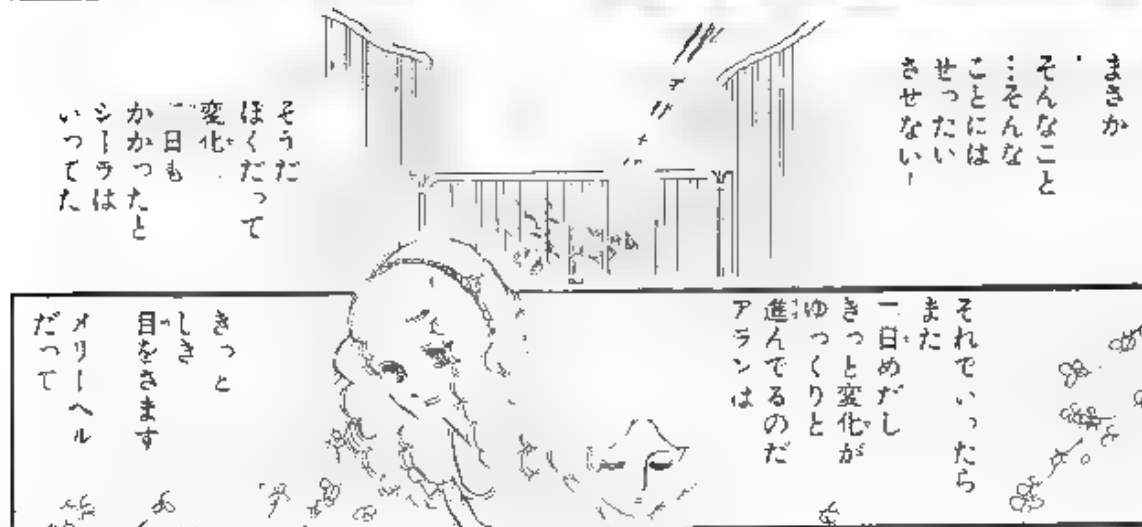
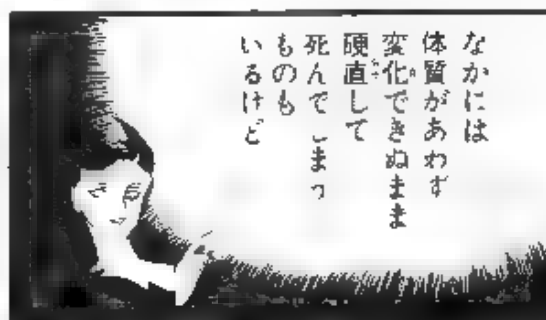
あ…あ  
だれっ



あたし…  
野菜を少し  
…父さんが  
若さまの  
じやまをしちや  
いけないって  
だから、そつと







メリーベルだつて...

メリーベルは

あの子は  
ぼくが  
仲間  
くわえた  
ちやんと  
一日で  
目さめたのだ

花の中  
花の中  
ぼくはどれほど  
あの子を  
愛したろう

いつも  
あの子を  
弱くした

なが  
しけた空気や  
つめたい夜風  
ま憂の陽が



ぼくたちは  
よく交流を  
おこなった

メリーベルの  
語きは  
あなたのせいよ  
エドガー

メリーベルと  
ぼくは  
よりそって  
ときには  
半月も  
静かに  
ねむりこんで  
いた



あなたの血は  
メリーベルに  
あわなかつ  
たのだわ



あれだけの  
濃さを  
もちながら

おかしな  
ことだが

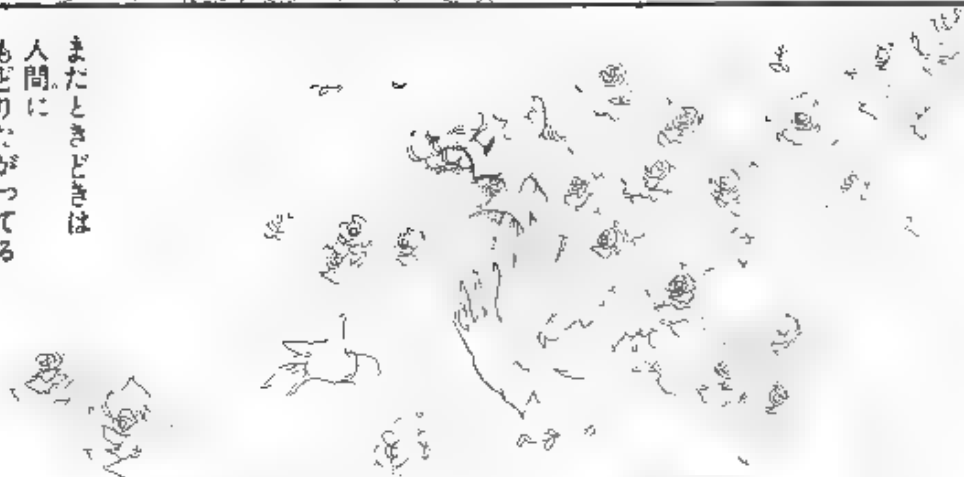


まあ  
おまえは  
一族のうちでも  
いろいろと  
特異だから  
へんだから  
しょうがない  
おまえは  
異常だから  
かわりもの  
から  
おまえは

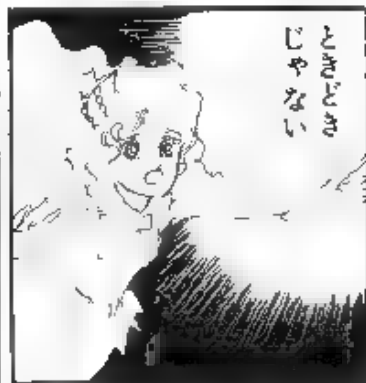


またときは  
人間に  
もどりたがつてる

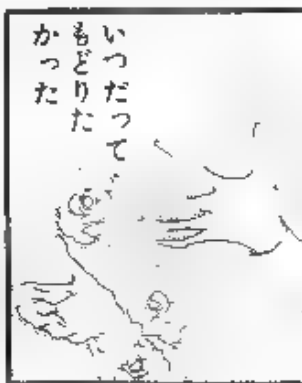
バラを散らす  
その手を持つて



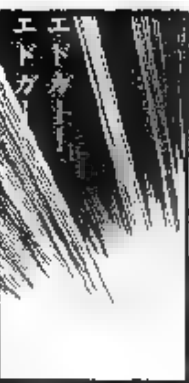
ときどき  
じゃない



いつだつて  
もどりた  
かった



なの  
メリーベルの  
手をとつて



殺して  
しまつた！  
殺して  
しまつた



ほくが  
仲間にく  
わえて



エトガー！  
エトガー！

アラン  
目を！

ぼくは一人で  
思い出ばかりを  
追いつける

——なぜ目を  
ささない



きみを  
つれてきたのが  
まちがいで  
あったと  
しても

ぼくが  
生きては  
いけないもの  
なのだと  
しても



雨の  
せい……？



アラン  
雨の  
雨

なんて暗い



湿気だらうか  
この重い  
なまぐさい

これがアランを  
目ざめさせない

メリーベルも  
水にはたいそう  
弱かった

雨がやめば

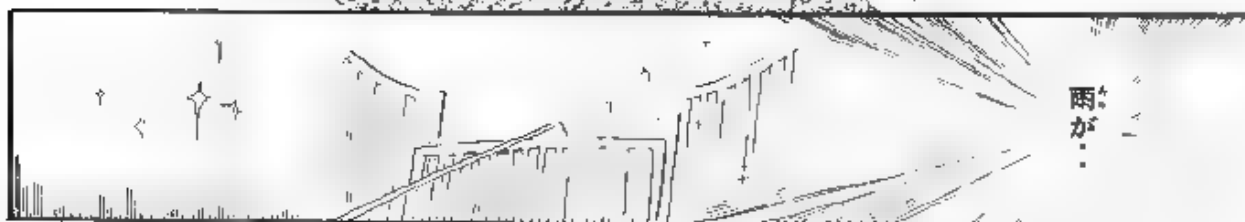
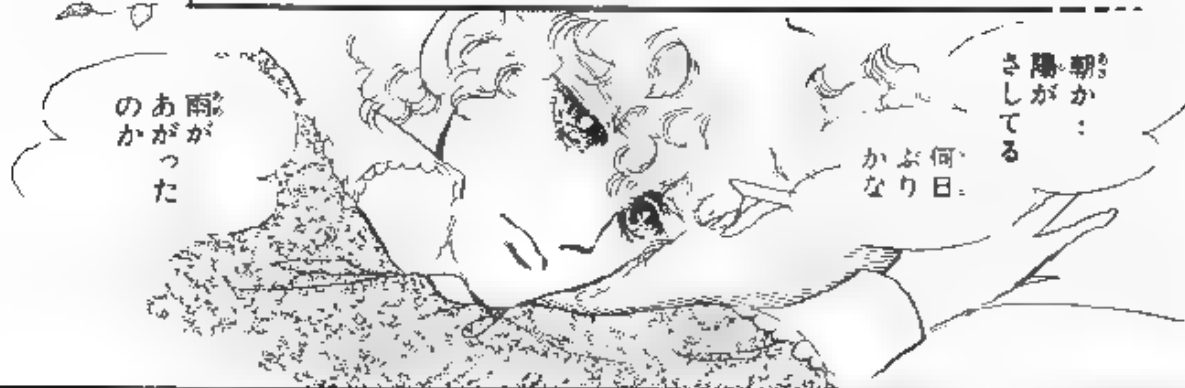
やみさえ  
すれば  
……

おいでよ

おいで  
おいで

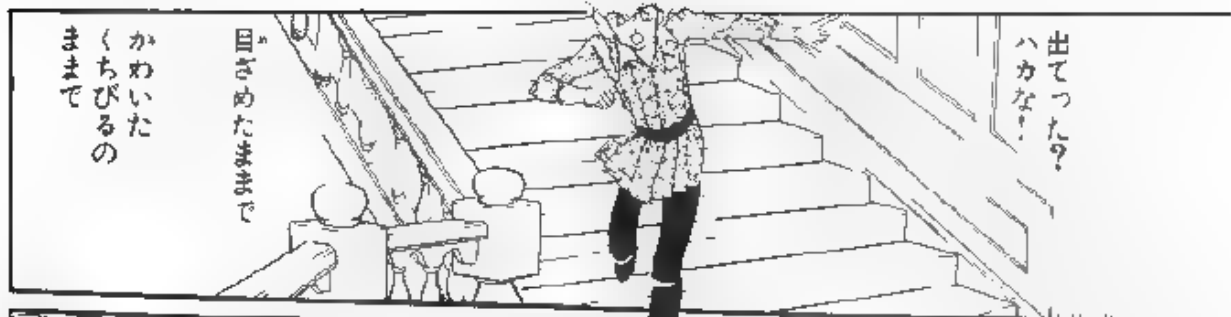
一人では  
さびし  
すぎる

さびしすぎる











二日まえ

でも  
父さんが  
そうしろ  
って

いつり

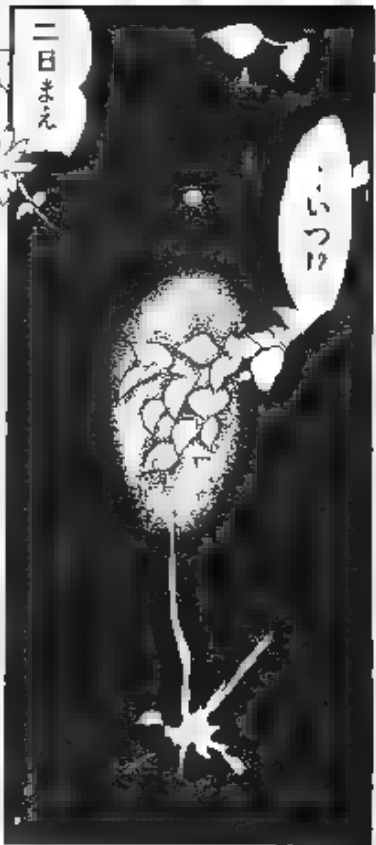


銃  
あつかえ  
ますかい  
若さま



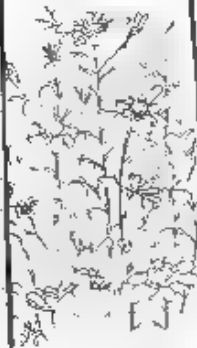
昨日から  
村のものと  
役人衆が  
山を狩って  
四人殺した

街道からむこうに  
盗賊が出るとは  
聞いてたけど  
雨でエサがなくて  
村まで  
きやがったんだ



どこだ  
アラン

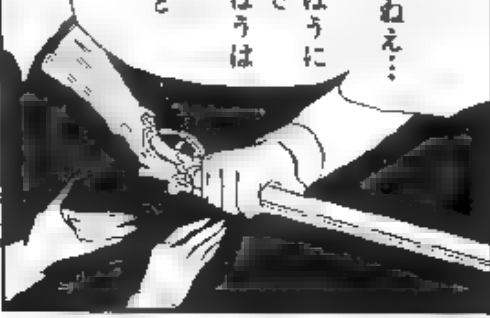
……街道で  
おそつてきた  
やつらの  
生き残りだな



西の森のほうに  
村中で狩りでは  
夕刻までには  
つかまろう



二人ほど  
まだ  
つかまんねえ…  
あの森のほうに  
追つてんで  
こつちのほうは  
大丈夫と  
思うけれど  
念のため  
わかった



見つけたら  
うち殺して  
くだつせ  
いいでつか  
うち殺して  
くだつせ!



どこを  
さまよって  
いる?



戦ったのは  
角獣とライオン  
母さんとマーゴット  
おじさんとおばさん  
ここはどこ  
まぶしいな

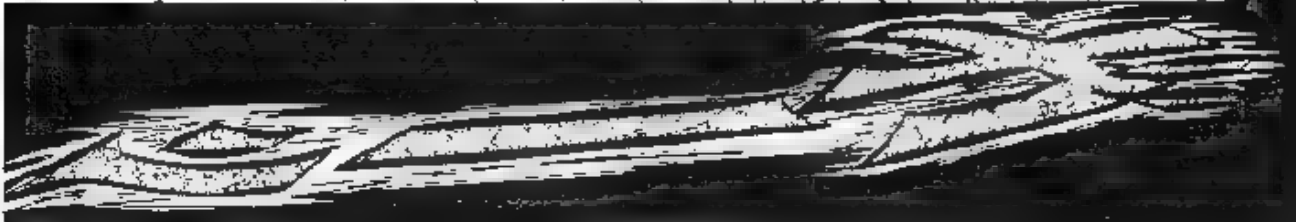
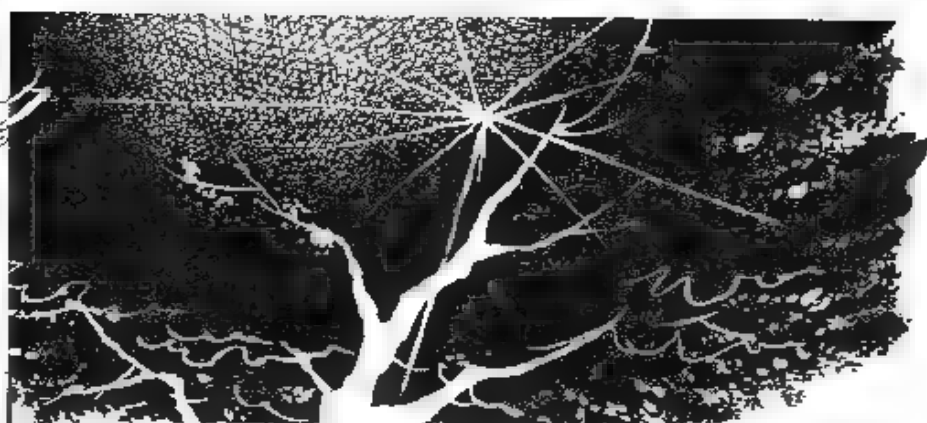
眠い  
光にとつぜん夢をけられて  
手足がもげそう  
これも夢かな  
真昼の夢かな

ひどく怠惰  
ひとく おっくう..  
なにか ほしい  
なにか おくれ



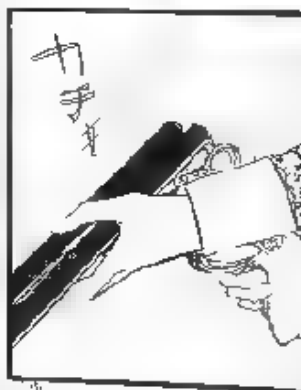
だれか そこに  
そこに だれか

いるはず  
なにか おくれ





なんてかきた  
会えて  
うれしいぜ、





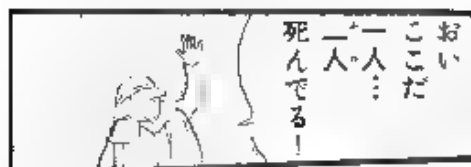




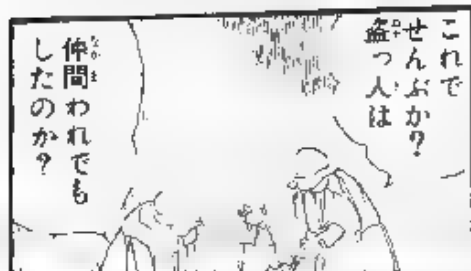
アランの  
最初の  
えじき……!

かわいそうに  
この男

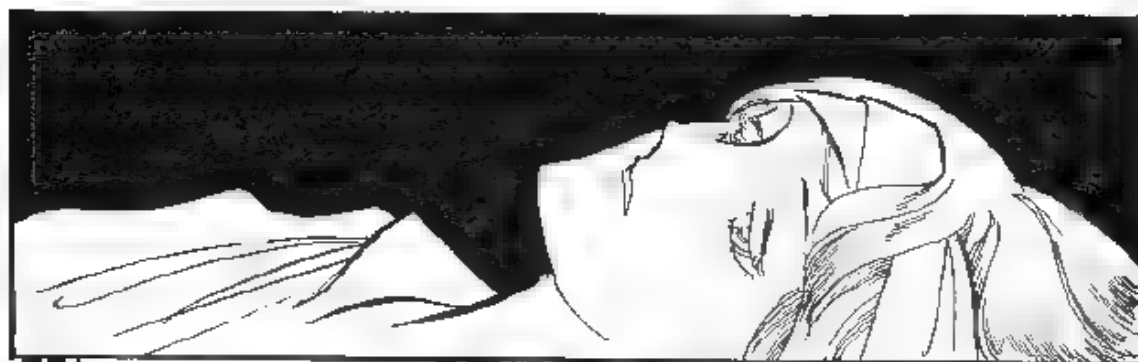
自分がなに者を  
相手にしたのかも  
気づかぬうちに  
死んでしまつて……!



おい  
ここに  
一人  
一人……  
死んでる!



これで  
せんぶか?  
盗っ人は  
仲間われでも  
したのか?



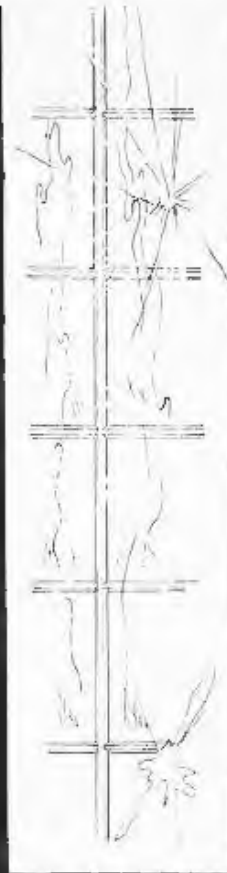
アラン











電  
天馬  
一角  
獸  
牧  
神  
イ  
カ  
ロ  
ス  
よ